

事業テーマ：未来都市型サイクル・シェア・ステーション周辺装置の試作開発

企業概要



精密板金加工を手掛け、40年近い歴史を持つ。顧客は大手メーカーから官公庁まで幅広い。精密板金加工にとどまらず設計・試作から溶接・塗装、部品のアッセンブリ（梱包）まで一貫した対応が可能。高精度が求められる板金加工技術、設計段階からコストダウンを図るVE/VA提案や熟練の溶接技術を保有し、試作品製作、そして後工程である塗装や部品の組み付けまで定評がある。

有限会社武蔵工業

代表取締役 小瀬公嗣

1982年8月

〒223-0057
横浜市港北区新羽町
574-6

21人

300万円

045-531-1304

金属製品製造業

WEBサイト

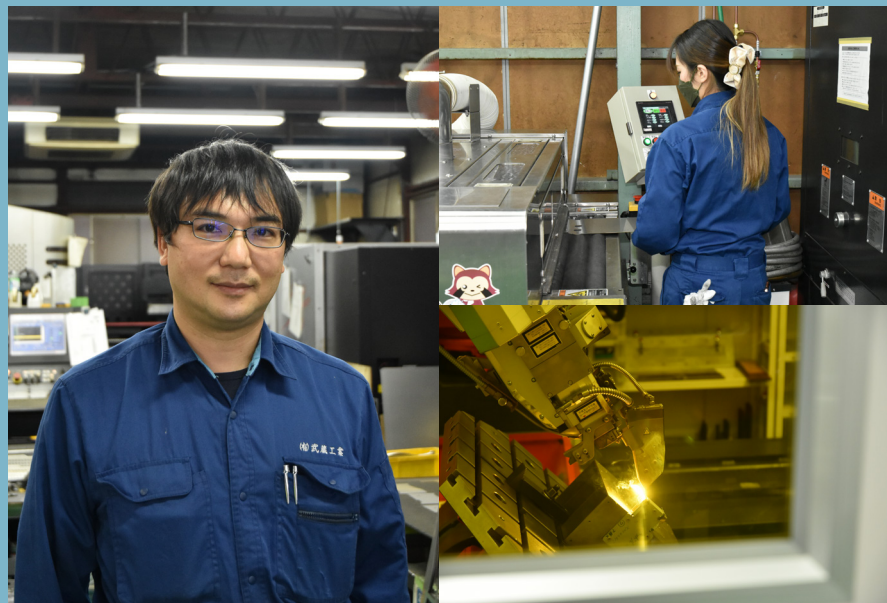


取材の現場から

当社では効率化を図る上で最新設備に適うものはないとの考えがある。手作業を自動化できないか、年々設備投資を行い生産性向上の取組みを続けている。高度な溶接技術など熟練技術も保有し、最新設備との融合で強みを発揮している。代表の小瀬氏は数年前に事業を承継し「町工場から企業へ」をスローガンに組織改革を進めている。



全自動曲げシステム 工場内のオートメーション化が進み24時間体制の加工も可能



左/代表取締役の小瀬 公嗣氏 右上/自動洗浄機に材料を流し込むだけで、洗浄から乾燥まで行われる
右下/自動溶接機も導入し熟練職人と設備の役割分担が進む

現在では工場建物が分かれているので移動のロスが発生しています。これを改善するため工場拡張を行い全社的な生産性を高めたいと考えています。そして、顧客からは精密板金加工と合わせて切削まで要望されることが多いので、マシニングセンタを導入し受注量の拡大が図れないかと試算しています。新たな加工工程を追加するためにもスペースの拡大は必要です。経営面では町工場から「企業化」を目指しています。コンプライアンスの遵守や社内ルールを整備し、社長が関わらずとも、業務が遂行できるような組織化を進めたいと考えています。

全社的な生産性向上に向けて

に設備投資を計画しました。導入の効果は即実感できました。3〜4人のパート社員全員が、一定の仕上がりで半日ほどで作業を完了できるようになりました。また、後工程では洗浄後の部品を汚さずに扱うようになったことも副次的な効果です。そのような部品は検査時点でもキレイな状態で維持されています。

事業者名：有限会社武蔵工業

事業年度：平成29年度



導入した板金用自動洗浄機

補助事業のきっかけ

・精密板金加工では業種業界問わず、月に数十社と取引をしている。一般的に製品には塗装することが多いが、ステンレスやアルミは金属表面のまま使用するケースもある。食品加工業界を始め、製品の衛生面に対する要望が高まっていた。
・金属の表面は汚れと防錆油が塗布されており、加工工程の中で油がつくことも多い。
・社内では手作業で洗浄（油分の除去）を行っていたため複雑な形状の製品ほど洗浄の手間がかかりボトルネックとなっていた。

事業計画の概要

・洗浄工程の効率化、省力化を図るため、板金部品専用の洗浄機を導入した。

事業化状況

・設備の導入によって洗浄作業単価を1/10、洗浄にかかる人件費を1/10とし、製品全体のコストダウンの割合は、概ね30〜40%低下させることができた。
・作業工程の効率化は常に行っている。自動化できる工程には設備を導入し、生産性を年々向上させている。

新設備と熟練技術の融合
当社は約40年の歴史を持つ精密板金加工業を行なっています。省力化や自動化を常に追い求めています。毎年設備投資を実施しています。現在は高精度の精密板金加工に対応したシステム等により24時間体制の加工も可能で、人の手では難しかった高精度の精密板金加工を低コスト・短納期で実現しています。一方で、自動化できない熟練職人の溶接技術や、板金設計においてはVE/VAによるコスト削減提案も重要で、最新設備と熟練した技術を掛け合わせることに生産性の高さが顧客から評価を得ています。発注元は、医療、通信、食品加工など様々な業界のメーカーです。補助事業当時、月に40社程から受注しており、取引先の拡大とともに塗装を必要としないアルミやステンレス製の製品も増えていました。金属の表面は油汚れなどが無い衛生的な状態で納品が求められますが、当社は手作業で洗浄していたため手間もコストもかかっていました。そこで、洗浄工程のボトルネックを解消するため

Case

4

ものづくり技術

ボトルネックであった板金洗浄工程の生産性向上への取組み

精密板金加工を得意とする当社。業種業界問わず、幅広いメーカーとの取引が広がる中、アルミやステンレス製といった塗装不要の製品が増えていた。金属表面の油汚れ等の洗浄は手作業であったため効率や品質向上に限界もあり、板金用の洗浄機を導入してボトルネックを解消した。